

もっと! レバードラグリール!!

大物に挑むなら、やはりレバードラグだ。

年々過熱するマグロゲームや生きエサの「泳がせ釣り」など、意外な近場でも20キロを超える大物にチャレンジすることが可能だ。時に50キロを超える大物とも対峙するこれらの釣りには、万全のタックルで挑まなくてはならない。どんなベテランでも、そんな大物が毎回掛かるわけではない。だから、いざ大物が掛ったときに、できる限りしっかり戦える体制で挑むのが釣り人たるものの心得だ。大物狙いでは必須条件のひとつともいえるレバードラグリールとはどんなものなのか、なぜレバードラグが大物狙いに適していると言われるのか、あらためて考えてみよう。

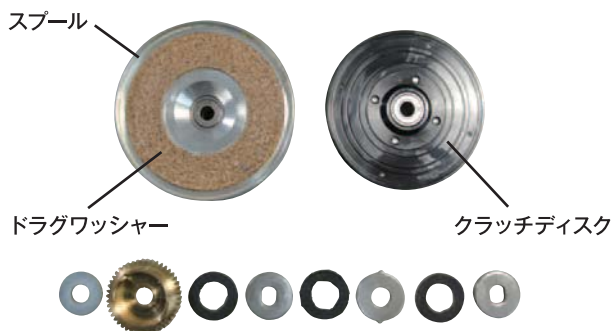


MAKAIRA MK-8 II

WHAT IS LEVER DRAG REEL?

レバードラグリールとは、どんなもの?

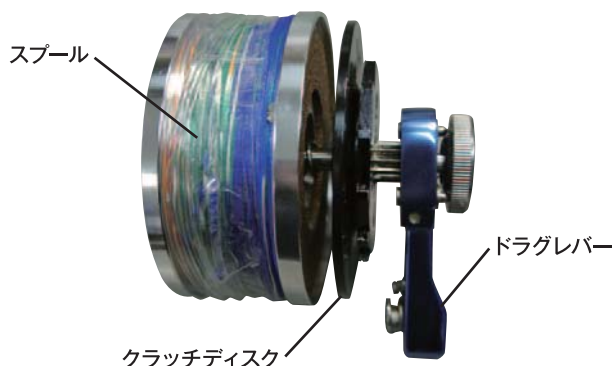
レバードラグリールは「ドラッグ力が強い」「ドラッグの効き具合が安定している」などの特長を持つ。大物釣りに向いているゆえんだが、それらの特長はリールの構造によるものだ。



上の写真を見れば、一目瞭然。上がレバードラグリール(マフィックスN4)、下がスタードラッグリールのドラッグワッシャー。リールサイズの違いはあるが、レバードラグリールではドラッグワッシャーをスプール径に限りなく近い大口径にできるため、強いドラッグ力を発揮し、かつ面積が広いのでスムーズな効き具合になる。

レバードラグの仕組み

写真は、レバードラグリールのドラッグに関連するパーツだけを組んだもの。右のレバーを移動させることによって、ドラッグ板がセットされたスプールがクラッチディスク(注:メーカーによりパーツ呼称が違う)に押し当てられたり離れたりしてドラッグ力の強弱が調整されるという仕組みだ。



ドラッグの再現性

例えばスタードラッグリールの場合、星型のパーツを回すことによってドラッグの強弱を調整するわけだが、一度ドラッグを動かすと、後で同じドラッグ力を出すポジションに戻すことが難しい。しかし、レバードラグでは、レバーを再び同じ位置に戻すだけで、最初と同じドラッグ力に調整することが容易だ。これがドラッグの再現性ということだ。

レバードラグでは、手前がスプールフリーの位置になる。一番奥で最大ドラッグ力となる。okumaマカイラでは、その間にストライクポジションのマークが付いていて分かりやすい。ストライクポジションでのドラッグ力は、魚がストライクしたときに、その引きに応じてラインが出るように調整するのが普通だ。一般的にはライン強度の1/3程度、マグロなど超高速で泳ぐ魚に対しては1/4とやや緩めの設定を行う。



この写真ではレバーはフリーの位置。ストライクポジションにはSTRIKE 刻印。

レバードラグのプリセットノブ

レバードラグリールでは、ハンドルの軸線上にプリセットノブというパーツが付いている。このパーツは、ドラッグ力をあらかじめ設定しておくためのものだ。ノブを回すことによってドラッグワッシャーをプレートに押し当てる具合を調整する。プリセットノブで基本的な調整を行っておき、魚とのファイト時にはドラッグレバーを動かしてドラッグ力を調整するのが普通だ。



okumaマカイラでは、ストライクポジションに黒いボタンがあり、レバーを押し込んでも、そこでいったん止まるようになっている。フルドラッグにする際は、黒いボタンを押してレバーをさらに押し込む。また、ハンドル付け根のクリックノブは、魚のストライクを大きなクリックサウンドで教えるためのもの。バックラッシュ防止のために使うことも多い。なお、ドラッグを正しく調整するためには、ドラッグレバーをフリーの位置に戻してからプリセットノブを回すことに注意してほしい。

●まだあるレバードラグの優位性

上記のような数々のメリットの他にも、レバードラグのメリットとして「ドラッグの力が目視で分かりやすい=レバー位置で判断できる」「ファイト中のドラッグ調整がやりやすい」「根掛りの際など、ラインテンションが掛かっていてもスプールフリーにできる」「ピニオンギアに掛かる負荷が少ない」「パーツ点数が少なく、頑丈で故障が少ない」「ドラッグが固着しにくい」などの点が挙げられる。一方で、スタードラッグにはクラッチ機構があり、一瞬の動作でスプールフリーにできるメリットがあり、ルアーキャストなど手返し早く釣りをする用途に向く。どちらの機構のリールを使うかは、様々な釣りにおける必要性によって異なり、どちらが優れた機構だとは決められない。しかし、大物をターゲットにした釣りの場合は、やはり圧倒的にレバードラグの優位性が発揮されると言える。